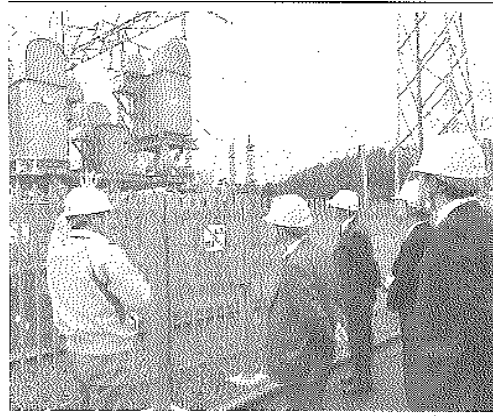


正副会長会議・函館開催に合わせて実施した「北本連携線」函館変電所視察に関して、平成30年11月2日(金)付の、日刊工業新聞に紹介されました。



北海道・本州送電線

道機械工業会が 函館変換所見学

【札幌】北海道機械工業会は函館支部との交流会に合わせ、北海道と本州を結ぶ送電線「北本連携線」の設備の一つである函館変換所（北地域流通システムセンター、北海道七飯町）を見学した（写真）。同施設は「パワーが管

理し交流と直流を交換する役割を担う。北海道胆振東部地震に伴う電力需給の逼迫で注目されたこともあり、会員の関心は高かった。北本連携線は送電力が最大60万キロワット。約167キロの区間で直流を送電している。このため函館変換所では、

本州からの直流の電力を交流にして道内に送電し、道内の交流の電力を直流にして本州へ送電する。サイリスタバルブと呼ばれる半導体機器が交流・直流の変換設備の心臓部だ。会員からは「平時の運用状況は」「北海道と本州間の電力のやりとりの比率は」などの質問が出され、担当者の説明に注意深く耳を傾けた。このほか、北海道電力の森地熱発電所（北海道森町）も見学し、地熱発電の仕組みに理解を深めた。